

高等学校 令和5年度（1学年用）教科 国語 科目 現代の国語

教科：国語 科目：現代の国語 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～ 8組

教科担当者：（2、6、7組：堀田）（1、3、5：兜坂）（4、8組：安藤）

使用教科書：（「現代の国語」143筑摩現国712）

教科 国語 の目標：言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

- 【知識及び技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 現代の国語 の目標：

【知識及び技能】a	【思考力、判断力、表現力等】b	【学びに向かう力、人間性等】c
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしており、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	単元 第1章 問うこと、語ること 第2章 評論文への招待 【知識及び技能】 言葉の特徴や使い方について理解し、使うことができている。 【思考力、判断力、表現力等】 目的に応じて話題を決め、収集した情報を整理して、伝え合う内容を検討することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 教材の内容に関心をもち、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	・指導事項 問いかける力を伸ばす。 ・教材 第1章「境目」 第2章「ことばとは何か」等 ・一人1台端末の活用 等				・「境目」という言葉やことばについて書かれた本教材を通じて、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。a ・各教材を通じて、自分の主張を行う前に、主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。a ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる。b ・評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、用紙や要点を把握することができる。b ・教材の内容、他者との関係、「ことばとは何か」に関心をもち、ほかの人の発表を注意深く聞き、ものの見方や、感じ方、考え方を深めようとしている。c				10
	定期考査								1	
	単元 第2章 評論文への招待 第5章 「話し合い」から「議論」へ 第6章 「根拠」から「主張」へ 第7章 伝えること、受け止めること 【知識及び技能】 主張したり説得したりすることばについて特徴や使い方を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 主張する際の論拠や、情報の妥当性、信頼性の吟味のしかたについて理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 教材の内容に関心をもち、ものの見方、考え方を深めようとする。	・指導事項 情報を正確に読み取る。 説得することばを身につける。 隠された情報を読み解く。 発信する力、受信する力を伸ばす ・教材 第2章「デジタル社会」 第6章「魔術化する科学技術」 第5章「誰かの靴を履いてみる ということ」等 第7章 実践 「ピブリオバトルに挑戦しよう」 ・一人1台端末の活用 等				・話し合いや発表の際に、話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、わかりやすさ、適切さ、経緯と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができている。a ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効果について理解することができる。a ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。b ・自分の主張を行う際に、主張と論拠など情報と情報との関係や、情報の妥当性、信頼性の吟味のしかたについて理解できている。b ・教材の内容に関心と親しみをもち、本教材の学習を通してものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。c				14
定期考査								1		
2 学 期	第10章 複眼的な視点 様々な視点から読み解く。 第16章 韻文の表現（言語文化） 【知識及び技能】 「」を用いた語句と用いない語句との使い分けを通して、言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて、叙述を的確に捉えたり、作者の思いをくみ取ることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 教材の内容に関心をもち、もの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	・指導事項 作品に描かれた人々の生活や、ものの見方、感じ方を理解する。 本文の「『文化相対主義』」と「文化相対主義」の違いをまとめ、具体例に沿って説明する。 様々な国や地域の風習や文化について調べ、表現に注意しながらその違いをまとめる。 ・教材 言語文化 第16章 韻文の表現 「二十億光年の孤独」 「崖」「I was born」 第10章「開かれた文化」等 ・一人1台端末の活用 等				・論理の展開を予想しながら、内容や構成、論理の展開、表現の仕方等、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。a ・作品の背景となる時代や国、地域の風習や文化について調べ、違いを学びつつ、作品を味わい、自分の考えを深めることができる。b ・教材の背景となる、時代や国、文化に関心を持っている。作品を通じて、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。c				12

